

magicolor7300 リファレンスガイドに記されているオーバーレイ印刷について、具体的な利用方法をご案内します。

ご注意:NT をご利用のお客様は下の STEP1 のみ他の WindowsOS で行って下さい。

オーバーレイ印刷の流れ

STEP1:オーバーレイ印刷に使用する書式データを作成する。

STEP2:ダウンロードマネージャを使用し、STEP1 で作成した書式データを magicolor7300 のハードディスクに転送(保存)する。

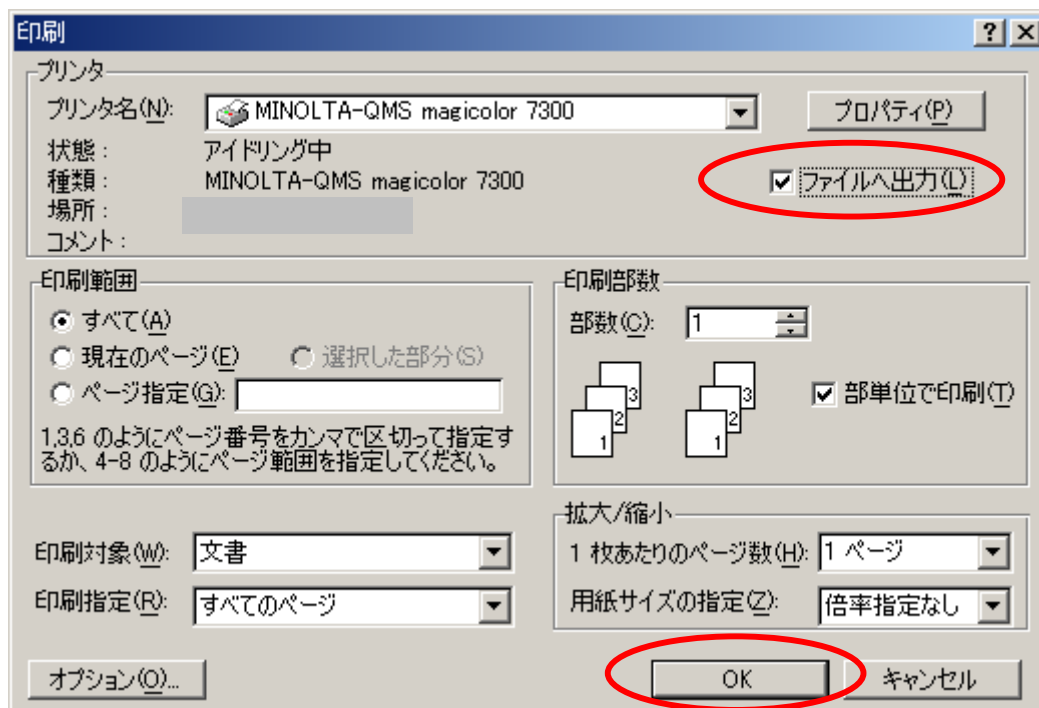
STEP3: STEP2 で転送(保存)した書式データを指定して、実際にオーバーレイ印刷を行う。

では以下に各 STEP の詳細を示します。

STEP1:オーバーレイ印刷に使用する書式データを作成する。

オーバーレイ印刷に使用する書式データは、以下の手順に従って作成してください。

1. オーバーレイ印刷に使用するデータを開き「ファイル」-「印刷」メニューをクリックします。
2. magicolor7300 プリンタを選択し「ファイルへ出力」をチェックし OK ボタンをクリックします。



3. 保存先を選択し、

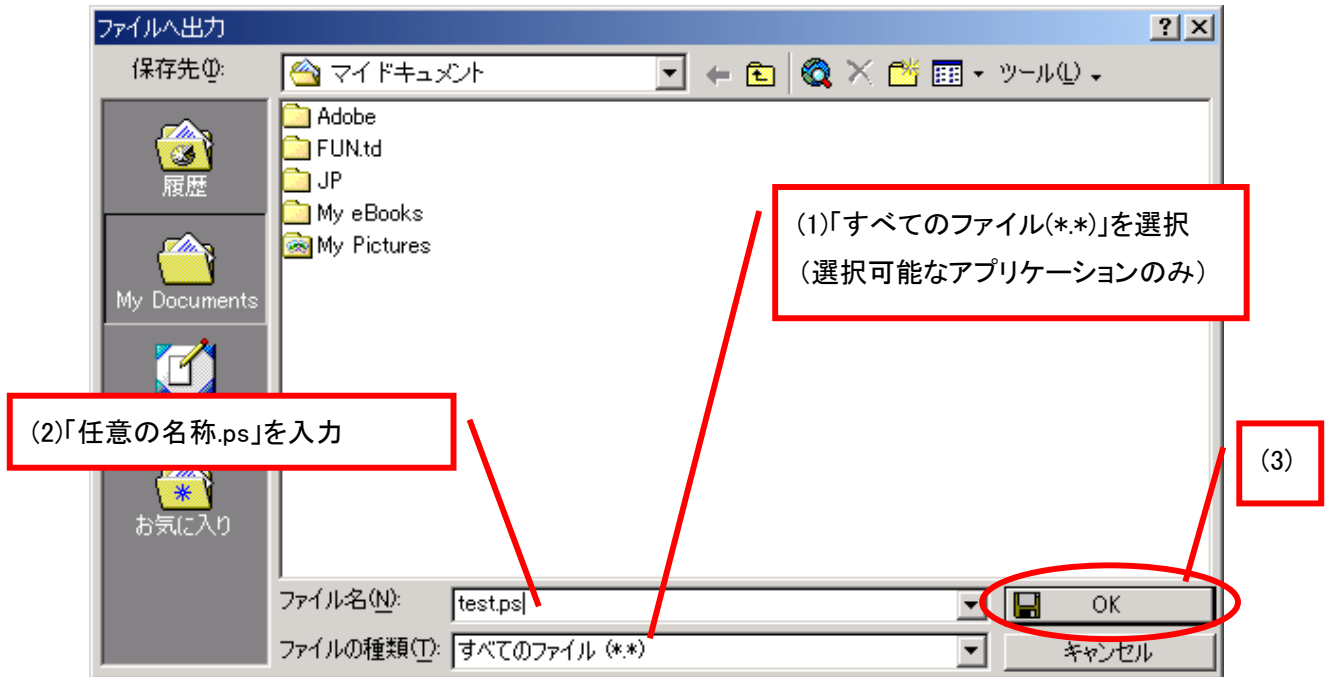
(1) ファイルの種類:「すべてのファイル(*.*)」を選択します。

(選択可能なアプリケーションのみ)

(2) ファイル名:「任意の名称.ps」(拡張子に'.ps'を使用する)を入力します。

ファイル名は、拡張子を除いて半角8文字以内としてください。また、ファイル名に半角のslash (/)、円記号 (¥)、大なり記号 (>)、小なり記号 (<)、アスタリスク (*)、疑問符 (?)、ダブルクォーテーション (")、縦棒 (|)、コロン (:)、およびセミコロン (;) は使用できません。

3) OK ボタンをクリックします。

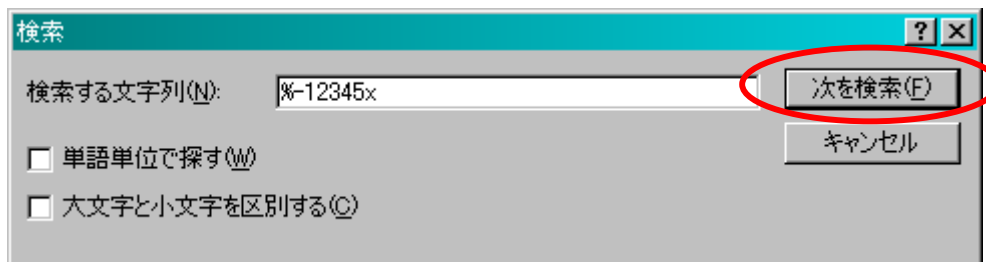


4. スタート/プログラム/アクセサリ/ワードパッドを起動し、3で作成したファイルを開きます。

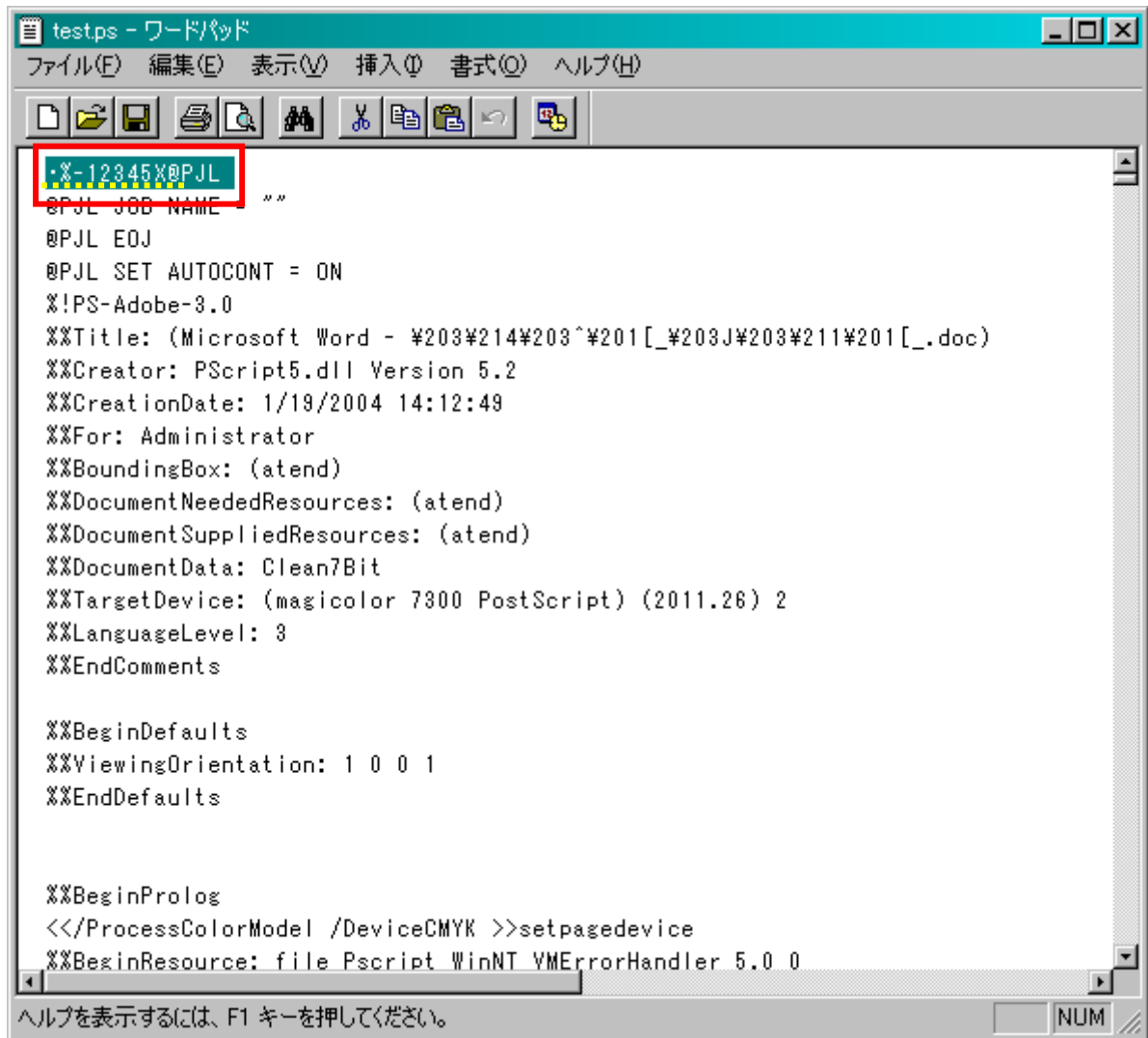
5. 以下の手順に従い書式データを作成していきます。

尚、Windows98/Me をお使いのお客様は下の(1)～(7)を、
上記以外の WindowsOS をお使いのお客様は下の (1)～(6)までを
行ってください。

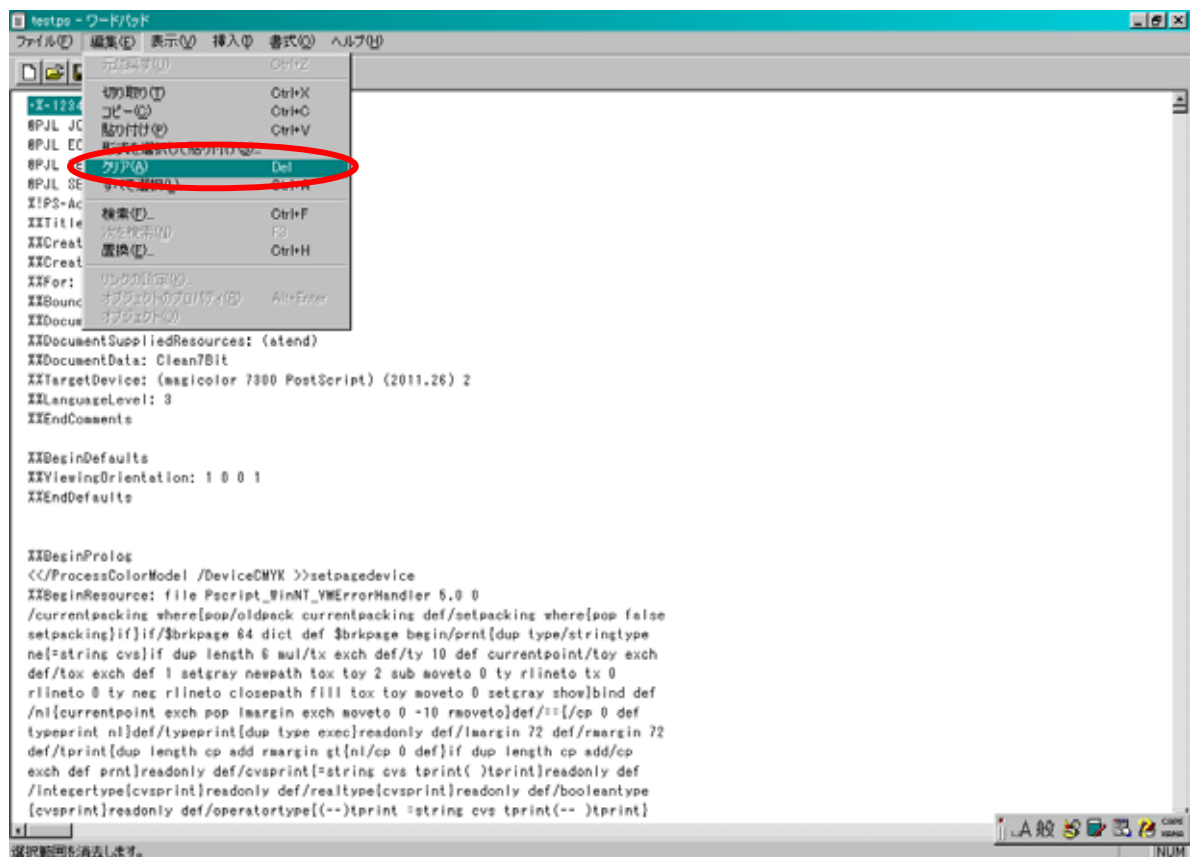
(1)「編集」-「検索」メニューで検索する文字列: '%-12345x' を入力し、「次を検索」ボタンをクリック
します。



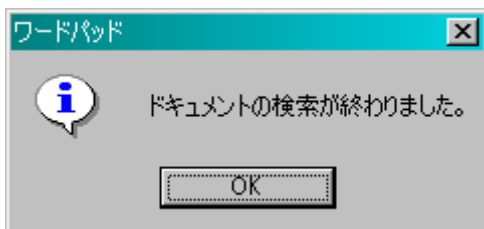
(2) '%-12345x'を含む行全体を選択します。(下の例では '%-12345x@PJL' が選ばれています。)



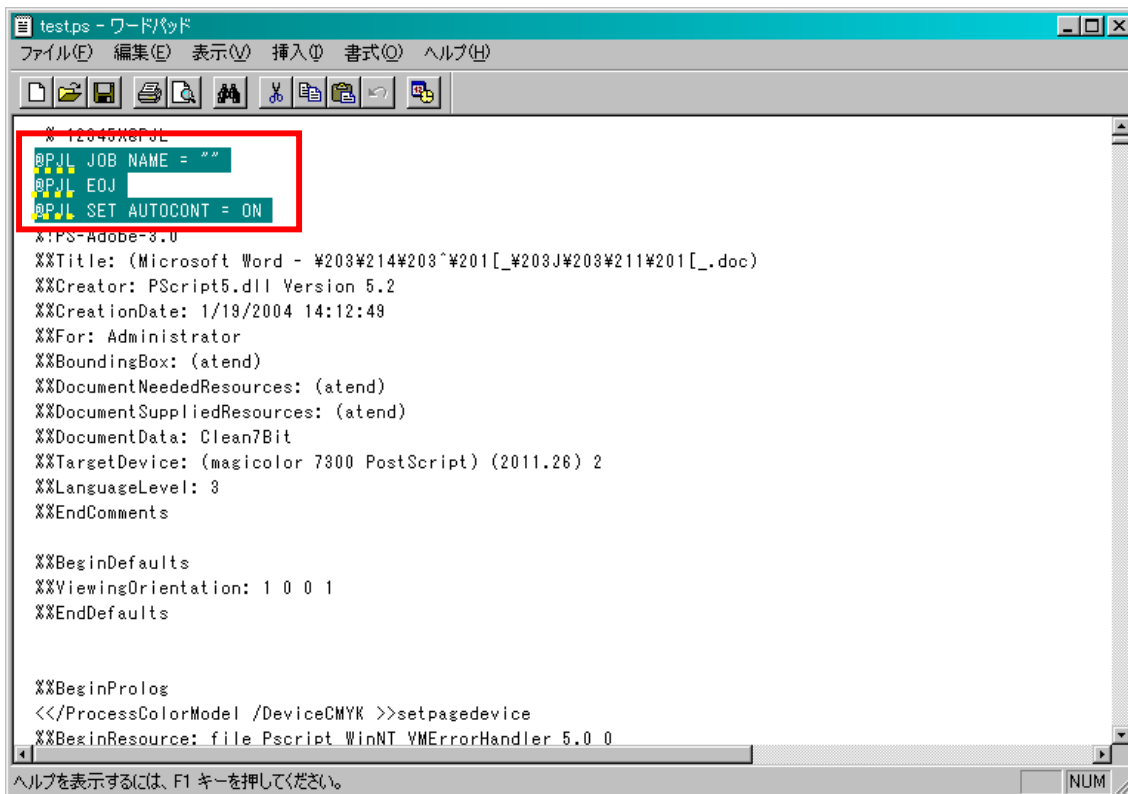
(3)メニューバーより「編集」-「クリア」します。



(4)次のメッセージが表示されるまで、(1)~(3)を繰り返します。



(5) (1)~(4)と同様の方法で' @pjl' で始まる行を検索し、すべて削除します。



(6) (1)~(4)と同様の方法で 'setpagedevice' を含む文字列を検索し、

'<<' で始まり '>>' setpagedevice' で終わる文字列を削除します。

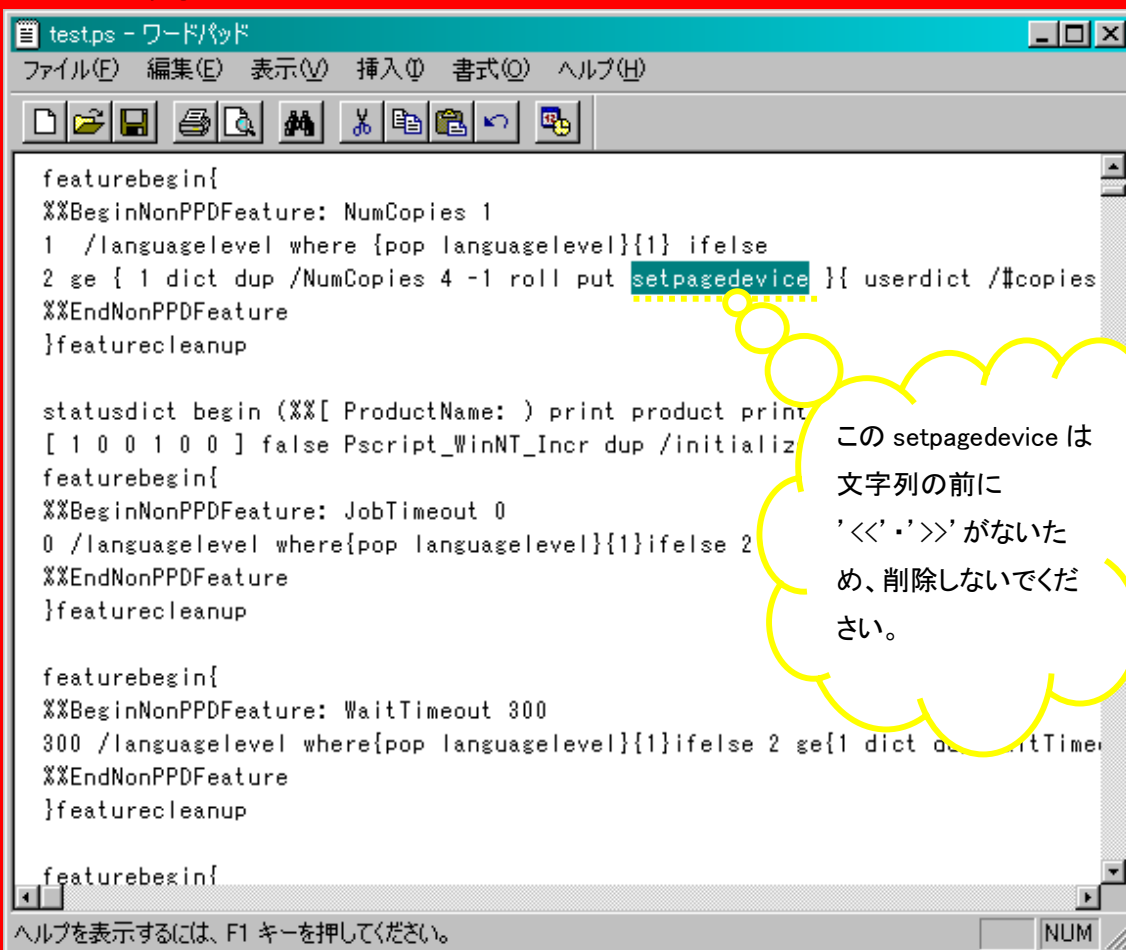
この組み合わせが構成されない場合は削除しません。

削除しない場合、削除する場合の例を示します。

* ひとつも検索されない場合にはそのまま次に進んでください。

削除しない場合

下のような 'setpagedevice' のみが存在する場合は削除しないでください。



```
featurebegin{
%%BeginNonPPDFeature: NumCopies 1
1 /languagelevel where {pop languagelevel}{1} ifelse
2 ge { 1 dict dup /NumCopies 4 -1 roll put setpagedevice } userdict /#copies
%%EndNonPPDFeature
}featurecleanup

statusdict begin (%%[ ProductName: ) print product print
[ 1 0 0 1 0 0 ] false Pscript_WinNT_Incr dup /initializ
featurebegin{
%%BeginNonPPDFeature: JobTimeout 0
0 /languagelevel where{pop languagelevel}{1}ifelse 2
%%EndNonPPDFeature
}featurecleanup

featurebegin{
%%BeginNonPPDFeature: WaitTimeout 300
300 /languagelevel where{pop languagelevel}{1}ifelse 2 ge{1 dict dup /WaitTime
%%EndNonPPDFeature
}featurecleanup

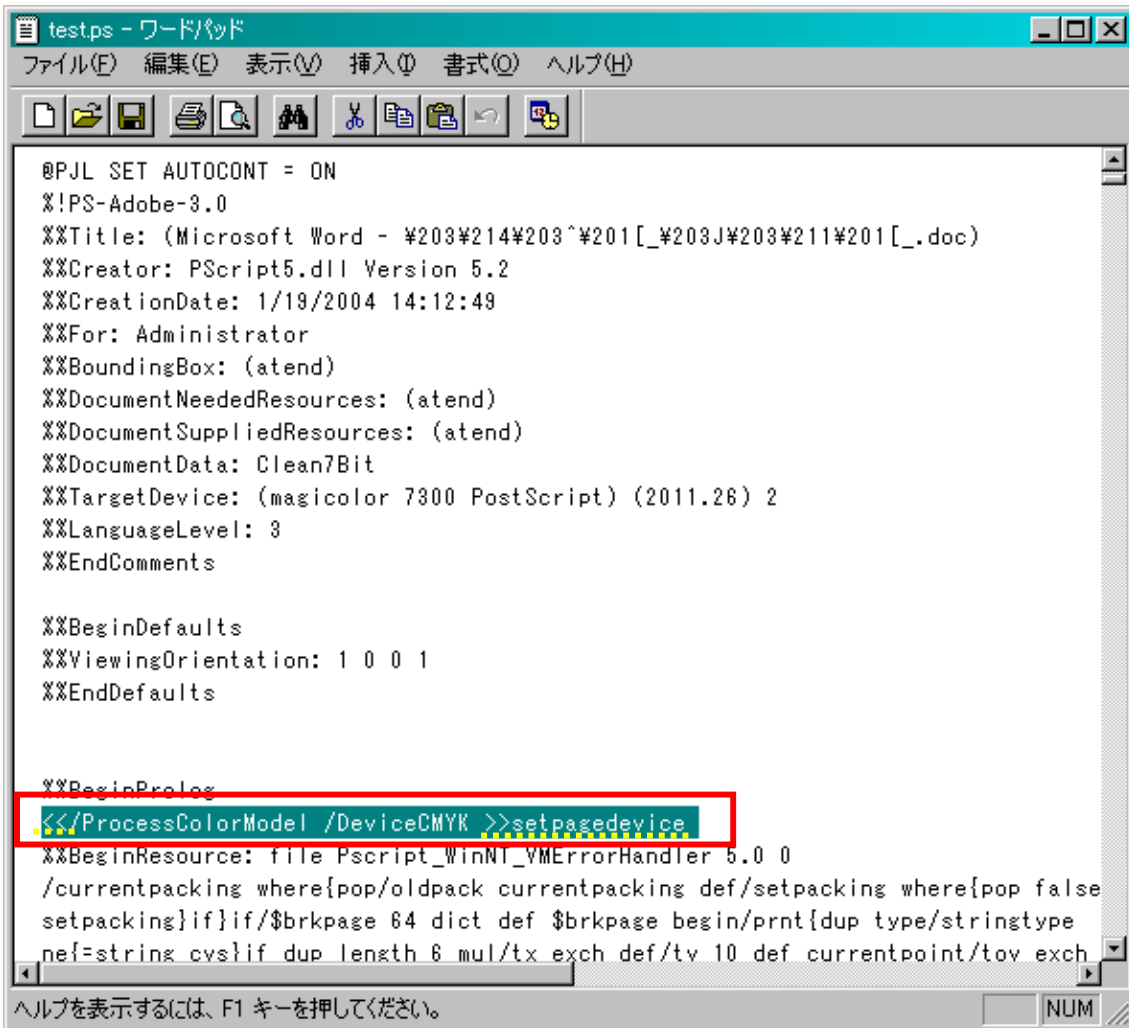
featurebegin{
```

この setpagedevice は
文字列の前に
'<<'・'>>' がないた
め、削除しないでくだ
さい。

ヘルプを表示するには、F1 キーを押してください。

・削除する場合の例1

'<<'で始まり'>> setpagedevice'で終わる行を削除します。



```
test.ps - ワードパッド
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ヘルプ(H)

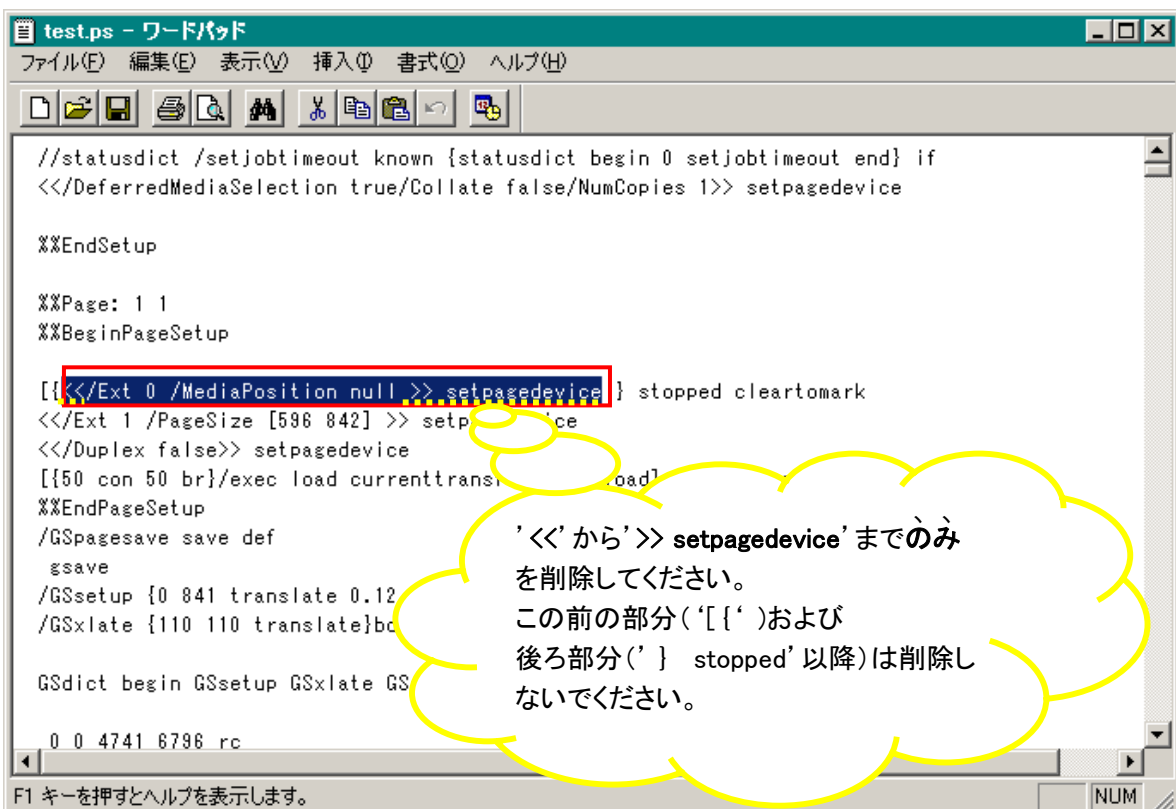
@PJL SET AUTOCONT = ON
%!PS-Adobe-3.0
%%Title: (Microsoft Word - ¥203¥214¥203^¥201[_¥203J¥203¥211¥201[_ .doc)
%%Creator: PScript5.dll Version 5.2
%%CreationDate: 1/19/2004 14:12:49
%%For: Administrator
%%BoundingBox: (atend)
%%DocumentNeededResources: (atend)
%%DocumentSuppliedResources: (atend)
%%DocumentData: Clean7Bit
%%TargetDevice: (magicolor 7300 PostScript) (2011.26) 2
%%LanguageLevel: 3
%%EndComments

%%BeginDefaults
%%ViewingOrientation: 1 0 0 1
%%EndDefaults

%%BeginProlog
<</ProcessColorModel /DeviceCMYK >>setpagedevice
%%BeginResource: file Pscript_WinNT_VMErrorHandler 5.0 0
/currentpacking where{pop/oldpack currentpacking def/setpacking where{pop false
setpacking}if}if/$brkpage 64 dict def $brkpage begin/prnt{dup type/stringtype
ne{string cvs!if dup length 6 mul/tx exch def/tv 10 def currentpoint/tov exch
ヘルプを表示するには、F1 キーを押してください。 NUM
```

・削除する場合の例2

'<<'で始まり'>> setpagedevice'で終わる文字列も削除します。



```
test.ps - ワードパッド
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ヘルプ(H)

//statusdict /setjobtimeout known {statusdict begin 0 setjobtimeout end} if
<</DeferredMediaSelection true/Collate false/NumCopies 1>> setpagedevice

%%EndSetup

%%Page: 1 1
%%BeginPageSetup

[[<</Ext 0 /MediaPosition null >> setpagedevice ] stopped cleartomark
<</Ext 1 /PageSize [596 842] >> setpagedevice
<</Duplex false>> setpagedevice
[[50 con 50 br]/exec load currenttransform load]
%%EndPageSetup
/GSPagesave save def
gsave
/GSsetup {0 841 translate 0.12
/GSxlate {110 110 translate}bc

GSdict begin GSsetup GSxlate GS
0 0 4741 8796 rc
ヘルプを表示するには、F1 キーを押すとヘルプを表示します。 NUM
```

'<<'から'>> setpagedevice'までのみ
を削除してください。
この前の部分('[[')および
後ろ部分('] stopped')以降は削除し
ないでください。

(7) (1)~(4)と同様の方法で **featurebegin[** で始まる行を検索し、

featurebegin[で始まり **]featurecleanup** で終わる行(間の行も含む)を削除します。

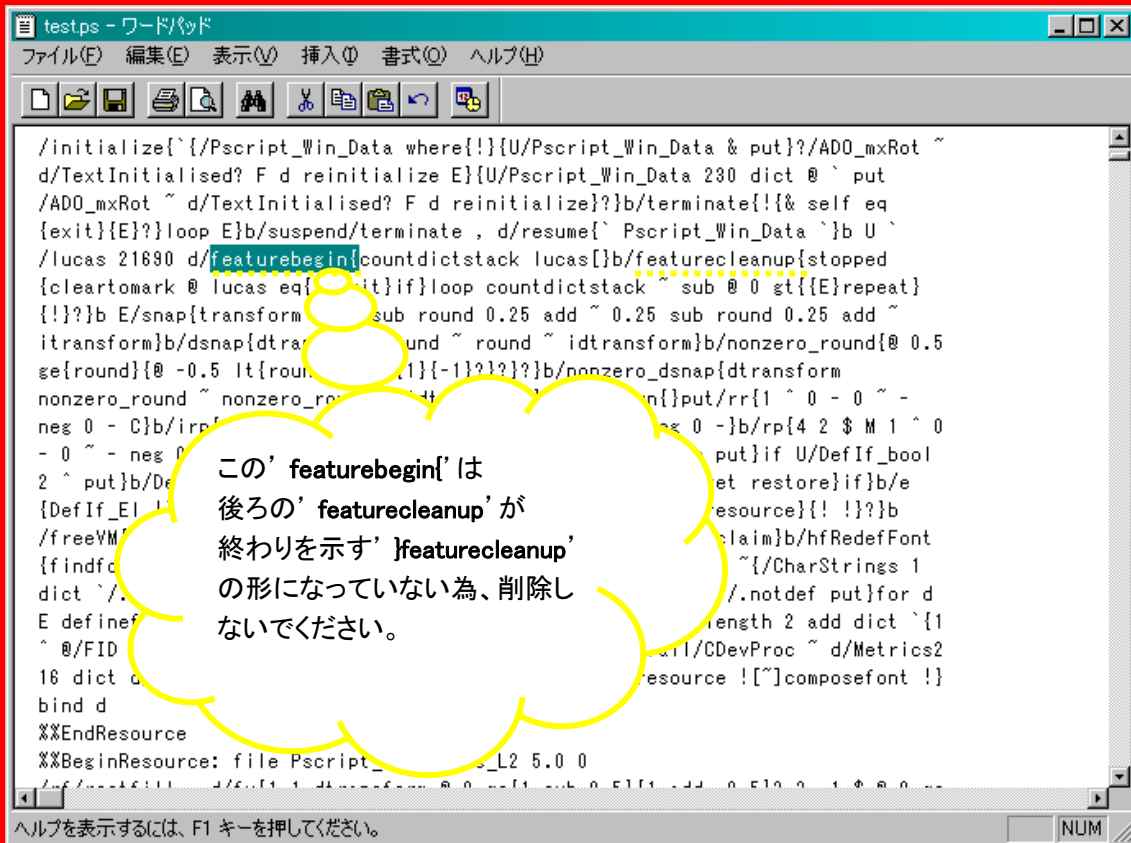
この組み合わせが構成されない場合は削除しません。

削除しない場合、削除する場合の例を示します。

* ひとつも検索されない場合にはそのまま次に進んでください。

削除しない場合

下のように **featurebegin[** のみが存在する場合は削除しないでください。

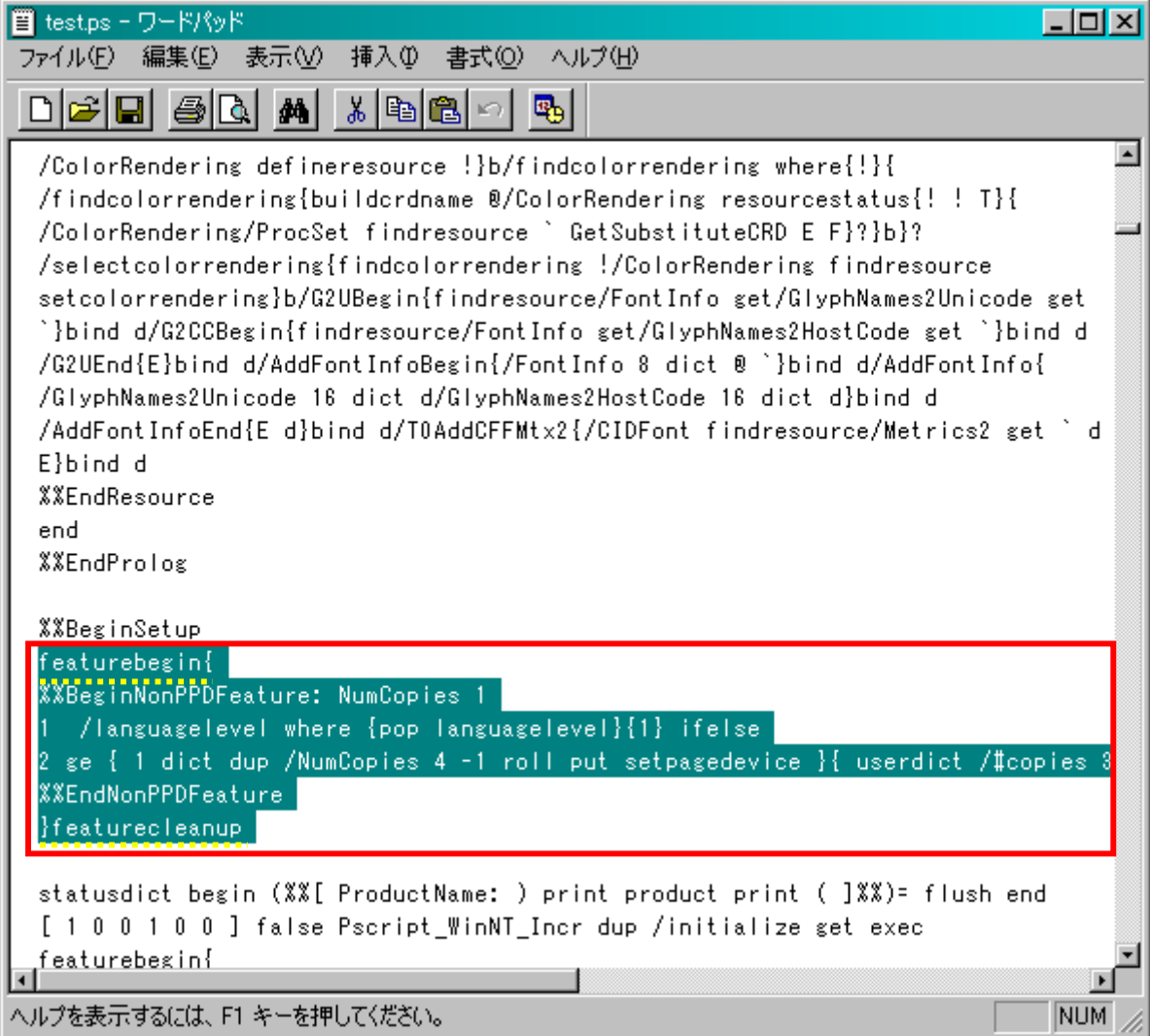


```
test.ps - ワードパッド
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ヘルプ(H)
/initialize`{/Pscript_Win_Data where{!}{U/Pscript_Win_Data & put}?/ADD_mxRot ~
d/TextInitialised? F d reinitialize E}{U/Pscript_Win_Data 230 dict @ ` put
/ADD_mxRot ~ d/TextInitialised? F d reinitialize}?b/terminate{!{& self eq
{exit}{E}?}loop E}b/suspend/terminate , d/resume{` Pscript_Win_Data `}b U `
/lucas 21890 d/featurebegin countdictstack lucas{}b/featurecleanup{stopped
{cleartomark @ lucas eq{` it}if}loop countdictstack ` sub @ 0 gt{{E}repeat}
{!}?}b E/snap{transform sub round 0.25 add ~ 0.25 sub round 0.25 add ~
itransform}b/dsnap{dtransform round ~ round ~ idtransform}b/nonzero_round{@ 0.5
ge{round}{@ -0.5 lt{round}{@ 1}{-1}?}?}b/nonzero_dsnap{dtransform
nonzero_round ~ nonzero_round ~ transform}b/rr{1 ^ 0 - 0 ~ -
neg 0 - C}b/irp{` es 0 -}b/rp{4 2 $ M 1 ^ 0
- 0 ~ - neg 0
2 ^ put}b/DefIf_bool
{DefIf_EI
/freeVM
{findfc
dict `/.
E definef
^ @/FID
16 dict d
bind d
%%EndResource
%%BeginResource: file Pscript_
~/fontsf/11 d/fo[1.1 dtransform 0.0 re[1 sub 0.5][1 add 0.5]2 0 1 $ 0.0 --
ヘルプを表示するには、F1 キーを押してください。 NUM
```

この **featurebegin[** は
後ろの **]featurecleanup** が
終わりを示す **]featurecleanup**
の形になっていない為、削除し
ないでください。

削除する場合

'featurebegin' で始まり 'featurecleanup' で終わる行(間の行も含む)を削除します。



```
testps - ワードパッド
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ヘルプ(H)

/ColorRendering defineresource !}b/findcolorrendering where{!}{
/findcolorrendering{buildcrdname @/ColorRendering resourcestatus{! ! T}{
/ColorRendering/ProcSet findresource ` GetSubstituteCRD E F}?}b)?
/selectcolorrendering{findcolorrendering !/ColorRendering findresource
setcolorrendering}b/G2UBegin{findresource/FontInfo get/GlyphNames2Unicode get
`}bind d/G2CCBegin{findresource/FontInfo get/GlyphNames2HostCode get `}bind d
/G2UEnd{E}bind d/AddFontInfoBegin{/FontInfo 8 dict @ `}bind d/AddFontInfo{
/GlyphNames2Unicode 16 dict d/GlyphNames2HostCode 16 dict d}bind d
/AddFontInfoEnd{E d}bind d/T0AddCFFmtx2{/CIDFont findresource/Metrics2 get ` d
E}bind d
%%EndResource
end
%%EndProlog

%%BeginSetup
featurebegin{
%%BeginNonPPDFeature: NumCopies 1
1 /languagelevel where {pop languagelevel}{1} ifelse
2 se { 1 dict dup /NumCopies 4 -1 roll put setpagedevice }{ userdict /#copies 3
%%EndNonPPDFeature
}featurecleanup

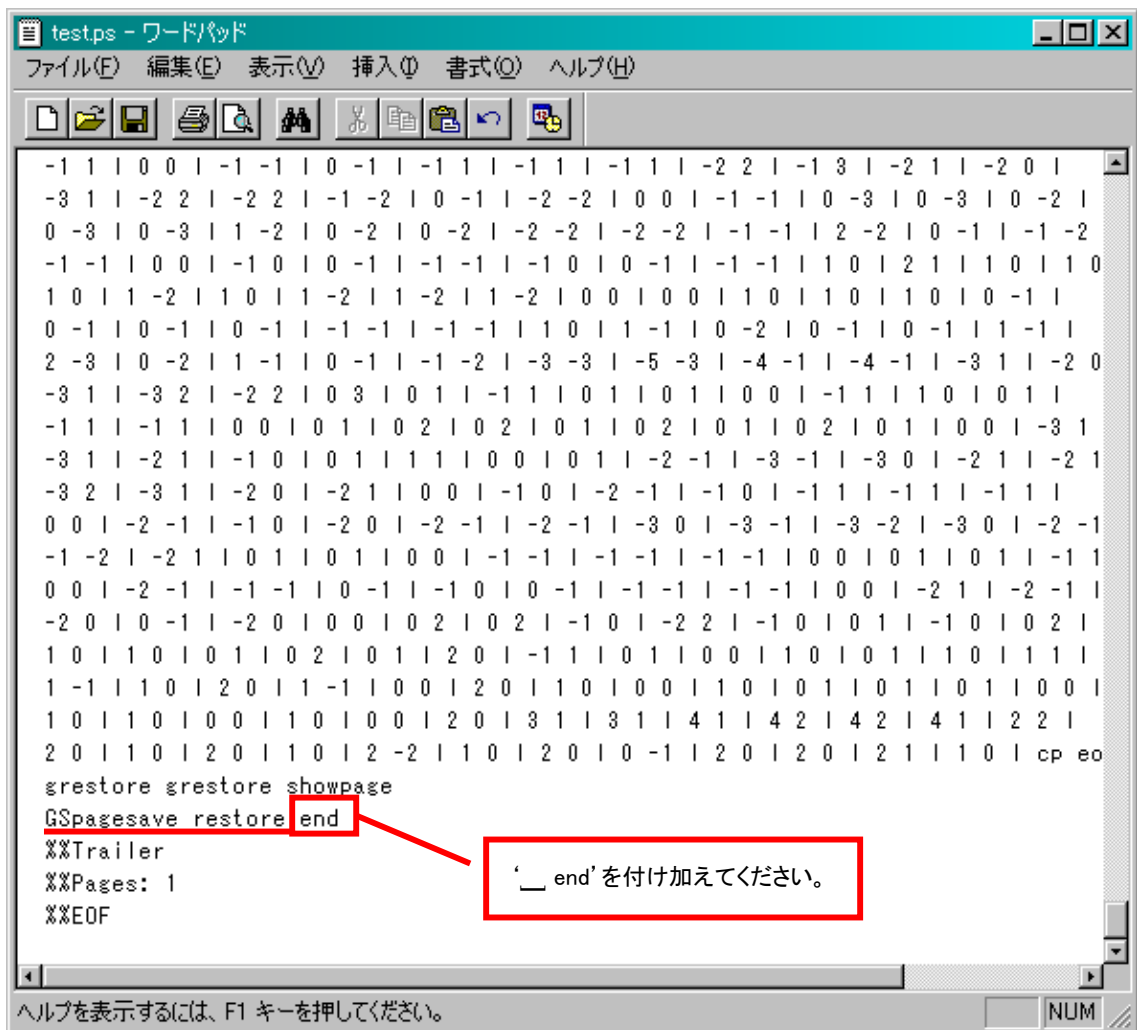
statusdict begin (%%[ ProductName: ) print product print ( ]%%)= flush end
[ 1 0 0 1 0 0 ] false Pscript_WinNT_Incr dup /initialize get exec
featurebegin{

ヘルプを表示するには、F1 キーを押してください。 NUM
```


(8) OS が Windows98/Me をお使いのお客様はさらにこの(8)を行なってください。

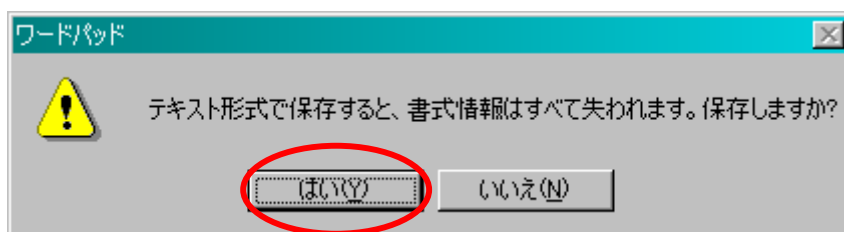
(1) と同様の方法で 'Gspagesave restore' を含む行を検索します。

この行はいくつかありますが、一番最後の 'Gspagesave restore' に 'end' を付け加えてください。(一箇所のみ)



作成したファイルを「上書き保存」します。

この際以下のメッセージが表示される場合がありますが、「はい」ボタンをクリックして保存してください。



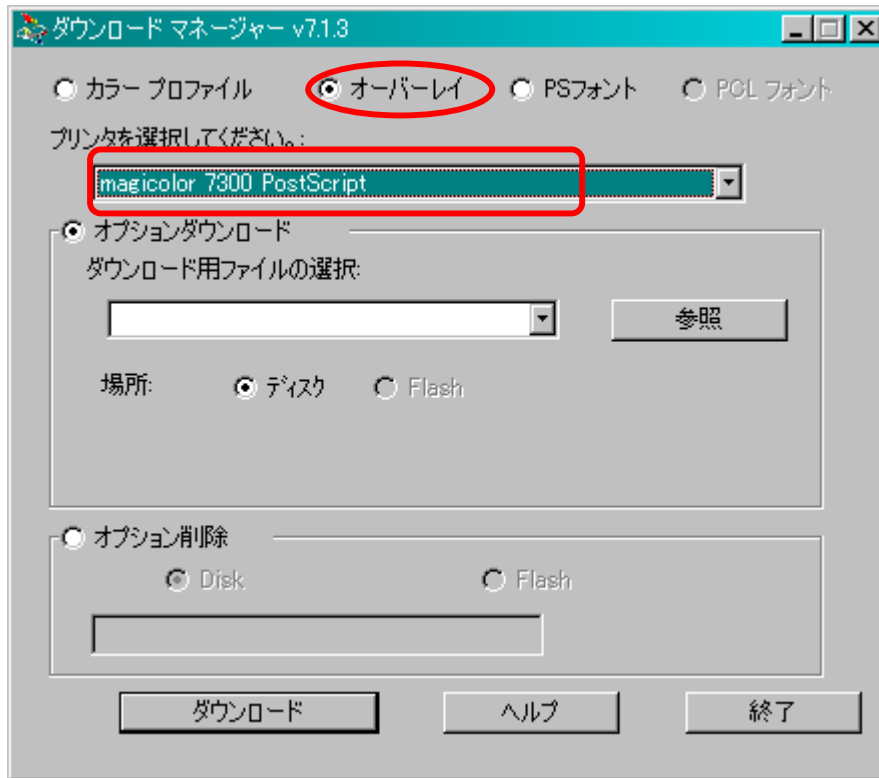
以上で書式データの完成です。

STEP2:ダウンロードマネージャを使用し、STEP1 で作成した書式データを magicolor7300 のハードディスクに転送(保存)する。

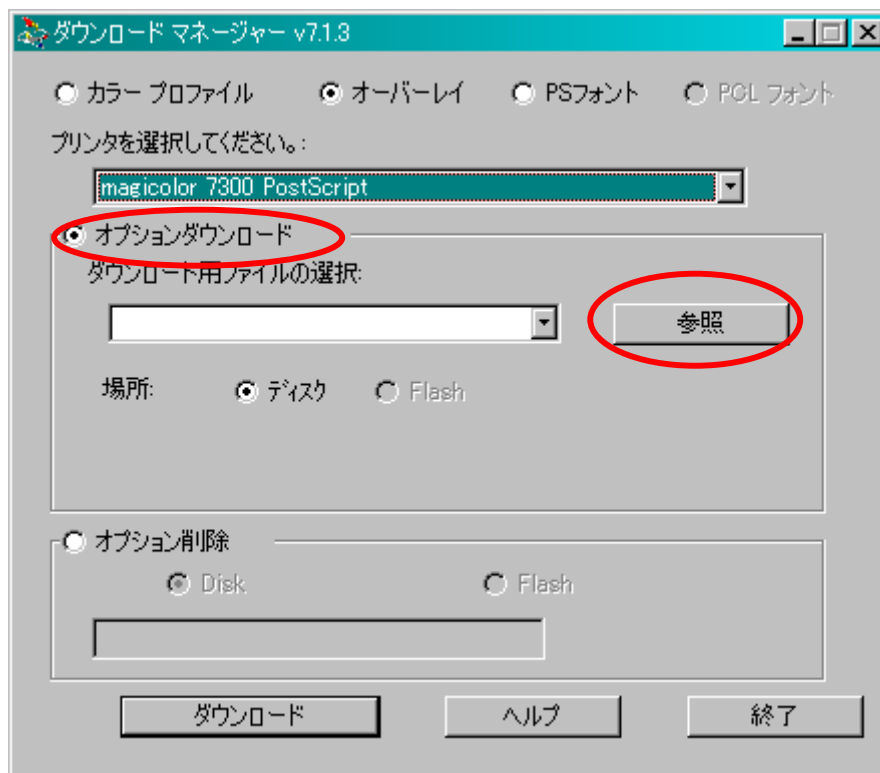
* ダウンロードマネージャのインストール方法、起動方法は magicolor7300 リファレンスガイド‘3.4 章ダウンロードマネージャ’ (P120～)をご参照ください。

1. ダウンロードマネージャを起動します。
2. 一行目の選択肢から「オーバーレイ」を選択します。

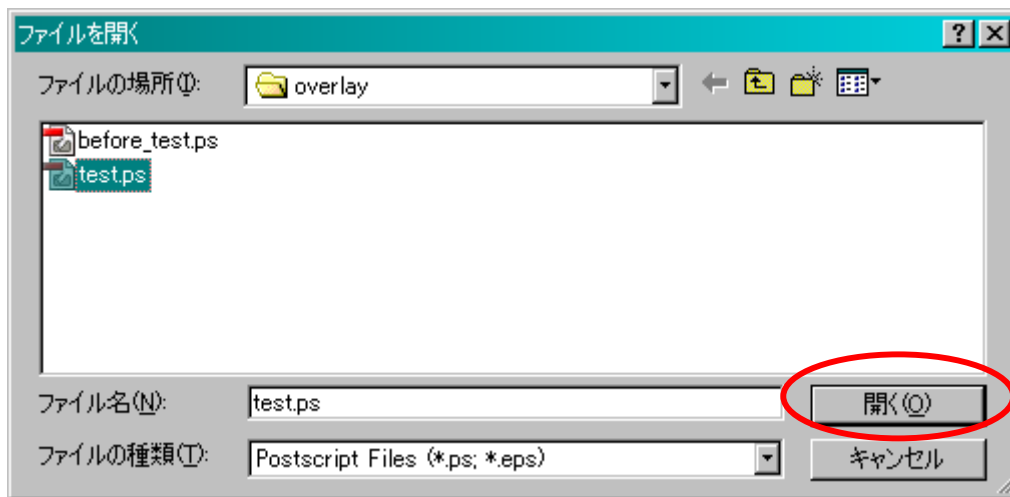
プリンタは magicolor7300(実際の名称はプリンタドライバインストール時の設定により異なります。)を選択します。



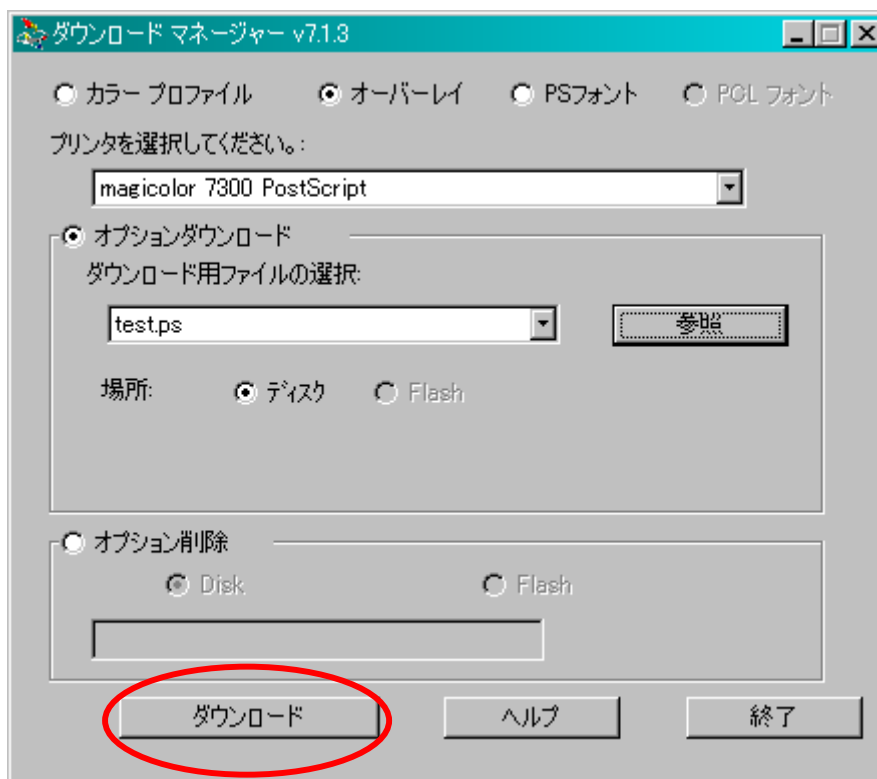
3. オプションダウンロードがチェックされていることを確認し、参照ボタンをクリックします。



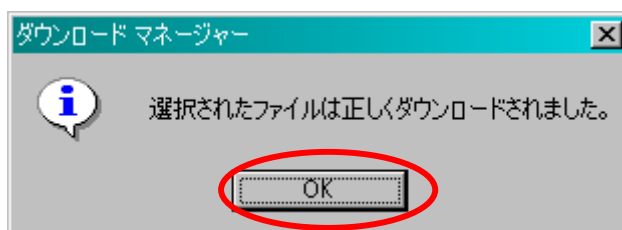
4. STEP1 で作成した書式データの保存先を指定し、開くボタンをクリックします。



5. ダウンロードボタンをクリックします。



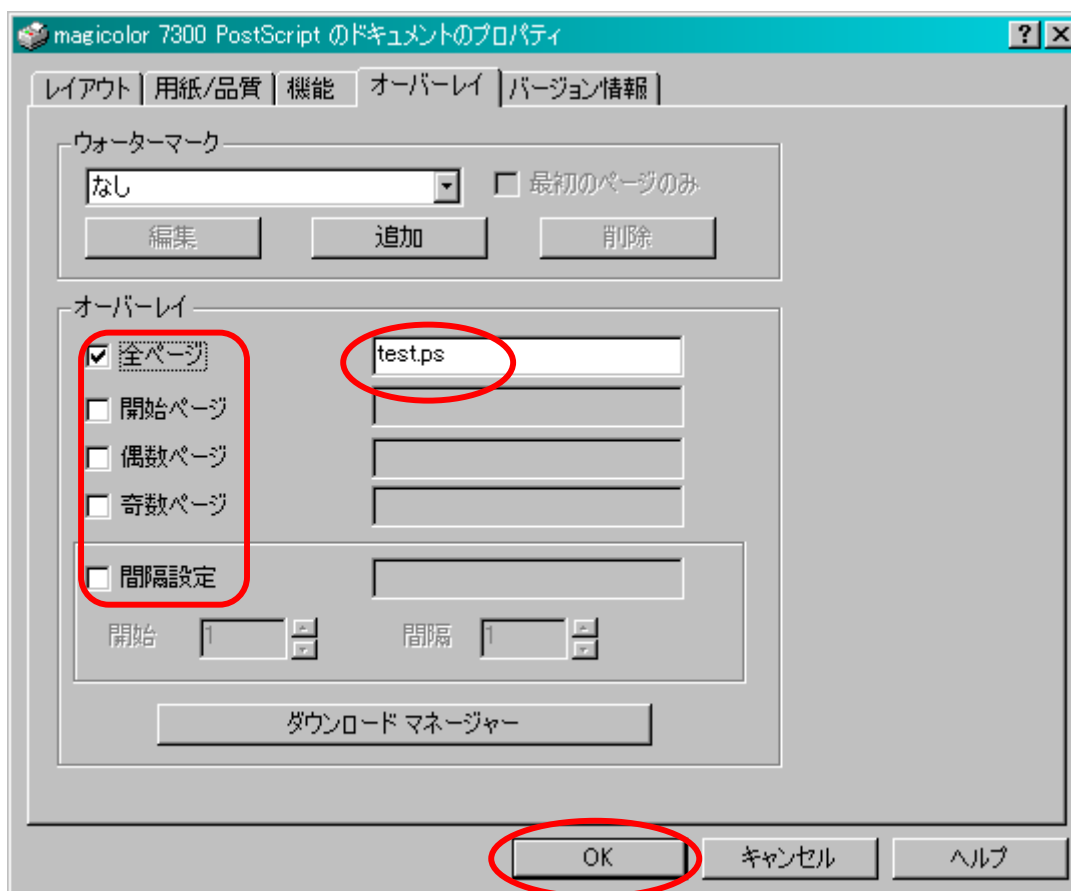
6. 以下のメッセージが表示されることを確認してください。
OK ボタンを押し、この画面を閉じます。



7. 5の画面に戻りますので終了ボタンをクリックし、ダウンロードマネージャーを終了します。

**STEP3: STEP2 で転送 (保存)した書式データを指定して、
実際にオーバーレイ印刷を行う。**

1. オーバーレイ印刷を行うファイルを開きます。
2. 「ファイル」-「印刷」(アプリケーションによって「プリント」の場合もあります。)ウィンドウの「プロパティボタン」をクリックします。
3. オーバーレイ印刷を行うページを
全ページ・開始ページ・偶数ページ・奇数ページ・間隔設定
より選択し(組み合わせも可能です。)、STEP1 で作成した書式データの名称を
右のボックスに入力し、OK ボタンをクリックします。



4. 「印刷」ウィンドウにもどり印刷します。